

稲羽西小学校区の地名の由来（1）

地 名	由 来
大佐野町 (おおさの)	大佐野という名前は、江戸時代から明治 30 年(1897 年)まで、葉栗郡大佐野村、明治 30 年から昭和 30 年まで羽島郡中屋村の大字の 1 つ、昭和 30 年から昭和 38 年までは稲葉郡稲羽町、昭和 38 年から各務原市の町名の 1 つとして使われていました。 名前の由来は、野に接頭語の「さ」をつけた佐野に大小の大をつけてよんだことによるといいます。この辺りを、奈良時代から鎌倉時代まで「佐野」とよんでいたそうです。
大野町 (おおの)	大野という名前は、江戸時代から明治 30 年(1897 年)まで、各務郡大野村、明治 30 年から昭和 30 年まで稲葉郡更木村の大字の 1 つ、昭和 30 年から昭和 38 年までは稲葉郡稲羽町、昭和 38 年から各務原市の町名の 1 つとして使われていました。 大野という名前の由来は、「新撰美濃誌」によると、各務野が大変広い場所であったことが、この名の由来とあります。大きな野ということであったと思われます。各務原台地が終わったところから広がる濃尾平野にある村という意味だという説もあります。
神置町 (かみおき)	江戸時代には、間島村と言われた地域です。明治 8 年に、間島村と石田村が合併して、現在の神置町の前身の神置村になりました。 神置という名前の由来は、明治 8 年の合併の時に、間島村が熊野神社、石田村が八幡神社を鎮守として対立した際に、両者を合祀して、両社を併置することにより和合させたことからきています。
上中屋町 (かみなかや)	上中屋という名前は、江戸時代から明治 30 年(1897 年)まで、葉栗郡中屋村、明治 30 年から昭和 30 年まで羽島郡中屋村の大字の 1 つ、昭和 30 年から昭和 38 年までは稲葉郡稲羽町、昭和 38 年から各務原市の町名の 1 つとして使われていました。 上中屋は、木曽川右岸の堤防沿いに位置しています。木曽川の旧河道と新河道の中にできた屋敷村という意味で、西隣の下中屋に対しています。
小佐野町 (こざの)	小佐野という名前は、江戸時代から明治 30 年(1897 年)まで、葉栗郡小佐野村、明治 30 年から昭和 30 年まで羽島郡中屋村の大字の 1 つ、昭和 30 年から昭和 38 年までは稲葉郡稲羽町、昭和 38 年から各務原市の町名の 1 つとして使われていました。 大佐野の北隣の地域で、名前の由来は、野に接頭語の「さ」をつけた佐野に大小の大をつけてよんだことによるといいます。この辺りを、奈良時代から鎌倉時代まで「佐野」とよんでいたそうです。